

健康問題による業務生産性低下率測定ツール日本語版を開発

～ 2010年10月を目処に新商品として販売開始予定 ～

株式会社損害保険ジャパン（社長 佐藤正敏 以下「損保ジャパン」）と、株式会社損害保険ジャパン・ヘルスケアサービス（社長 小澤正彦 以下「SJHS」）は、個人の心身の健康状態が与える仕事のパフォーマンスへの影響度を測定する「ワークリミテーション（仕事上の制約）に関する調査票（以下「WLQ」（※1）」）について、米国の著作権者から許諾を得て、日本語版を開発しました。SJHSでは今年10月を目処に、独自サービスであるmimozaシリーズ（※2）にWLQ調査を組み込んだ、本邦初の新サービスを開発し、販売を開始します。

※1 WLQ：米国 Tufts Medical Center の Debra Lerner 博士らが開発した Work Limitations Questionnaire です。

※2 mimoza シリーズ：予防・不調者対応・休職者対応・復職支援・メンタルヘルスケア体制構築等、企業・組織の各課題にカスタマイズ可能な SJHS 独自開発のサービスラインアップです。具体的なサービスの内容は、別紙をご参照ください。

1. 開発の背景

企業におけるストレス関連疾患の中心的な存在である「うつ病」を中心とした労働者の心の健康問題は、生産性の低下や休職者の増加、あるいは精神疾患を理由とした労災認定など、企業に与える影響が大きく、経営の重要課題となっています。

うつ病は、「職業的・社会的機能への影響が大きく、職場では、欠勤や休職、離職となって現れる。また、出勤できている場合でも、集中力や意欲が十分ではなく、作業能率の低下や見落としなどのミスの増加を呈する」（※3）ことが広く指摘されています。

欠勤や休職は、その日数を記録することで、その影響の大きさを把握することが可能ですが、健康上の問題を抱えながら就業を継続している場合の生産性低下を評価する手法も必要であると、SJHSは考えてきました。

生産性の低下を測るツールとしては、米国を中心にいくつかの手法が開発されています。WHO（世界保健機関）の Health and Productivity Questionnaire という質問票では、過去4週間の仕事のパフォーマンスに対する自己評価を0～10の尺度で申告させる方式を取っていますが、仕事上どのような制約が生じているのかを明らかにしていません。また、スタンフォード大学が開発した Stanford Presenteeism Scale という質問票では、過去1か月間における仕事の遂行状況に関する6つの記述に対して

「全くその通り」～「全くそうではない」の5つの選択肢から自己申告させ、合計点数により仕事への影響の大きさを把握する手法を取っていますが、生産性低下割合を定量化する計算式は開発されていません。

WLQは、これらの手法では測定できなかった仕事上の制約の状況・生産性低下率を測ることのできるツールとして、SJHSで2008年より調査・研究を継続してきたものです。

※3 上島国利編 最新医学別冊「新しい診断と治療のABC 9/精神1/躁うつ病」
(株式会社最新医学社、2003年)

2. WLQの特徴

WLQは「時間管理」「身体活動能力」「メンタル・対人関係」「仕事の成果」の4つの分野の計25問（簡易版は8問）で構成された質問票で、米国では医学・健康の諸分野の研究に広く活用されています。質問の回答を元に、個人の健康上の問題に起因する仕事上の制約を把握し、特定のアルゴリズムで集計を行うことで、生産性の低下割合の推計が可能です。

3. WLQ日本語版の商品化による可能性

SJHSは、従来型のEAP（従業員支援プログラム）にとどまらず、企業経営と生産性向上の観点から職場環境や事業場内産業保健体制などを多面的に支援する、企業のメンタルヘルス対策の総合的ソリューションを提供しています。今回の開発により、WLQを組み込んだ新サービスを開発・提供し、SJHSのサービス品質の飛躍的な向上と効果の経済的可視化を図ります。

WLQは、生産性に影響を及ぼすと考えられる仕事上の制約の状況を網羅的に把握できるため、産業保健実務での活用が期待されており、これにより、組織ごとの生産性指標の比較や、SJHSのサービス導入前後の生産性指標の変化を測ることによる導入効果の可視化なども可能になります。

SJHSは、企業のメンタルヘルス対策の支援を通じて、企業・組織の生産性や業績の向上に寄与し、SJHSの使命である「1つでも多くの『ヘルシーカンパニー』実現への貢献」に向けて、今後も社会全体の健康度・幸福度の向上に努めてまいります。

以上

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社損害保険ジャパン

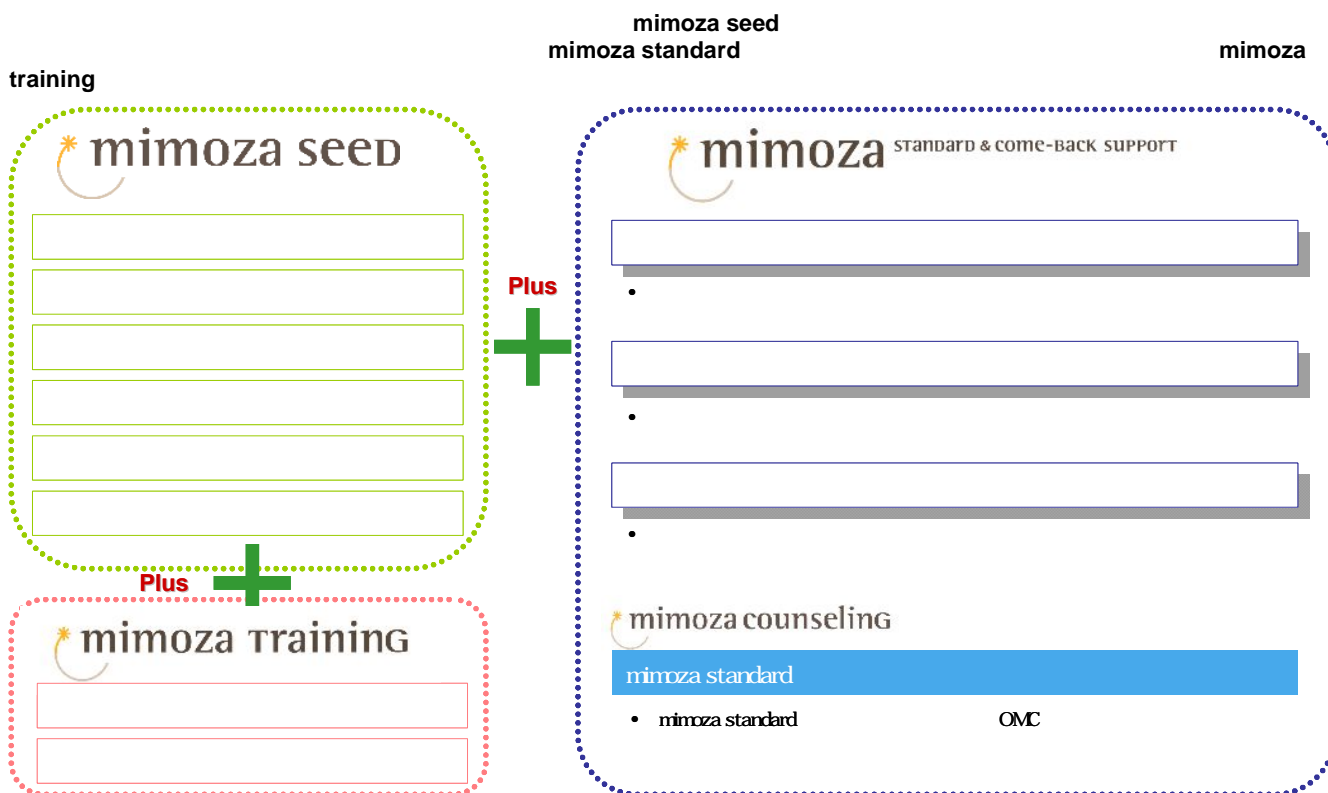
ヘルスケア事業開発部 矢倉 (03-3349-3502)

株式会社損保ジャパン・ヘルスケアサービス

サービス開発部 寺坂 (03-3349-9205)

<ご参考>

SJHS の独自サービスラインアップ「mimoza シリーズ」



OMC

occupational mental health coordinator